

2019 年度交換留学(派遣) 報告書 ④

所属学科／研究科	史学科
留学先国	中国
留学先協定校	蘇州科技大学
留学期間	約 11 ヶ月
留学時学年	3 回生
留学先での所属	国際文化教育センター
渡航日／発着便	2019 年 2 月 25 日 関空 → 浦東
帰国日／発着便	2020 年 1 月 22 日 浦東 → 関空
留学先で取得した単位数合計	30 単位
本学で認定された単位数合計 (※30 単位上限)	18 単位 (中国語応用一括)
海外留学助成金	20 万円 (前期 10 万円+後期 10 万円) 助成
検定試験合格者助成金	—
備考	—

留学成果レポート

■なぜ、派遣先国・派遣先大学への留学を希望しましたか？

昔の日本のことを知っていくうちに、ほとんどの文化が中国からのものだとということを再認識し、興味を持ちました。蘇州は歴史も古いので興味を持ちました。

■派遣先大学で、どのようなことを学習・研究しましたか？

学習面では、言語はもちろん、生活文化や中国で過ごすために大切なことを学びました。研究面では日本語学習者である学生に向けて、日本語はどの点が難しいかなどのアンケート調査を行いました。

■留学するにあたっての目標は何でしたか？ 目標は達成できましたか？

とにかく意識していたのが、中国の方と同じ生活をするということでした。良い文化にはもちろん、日本では馴染みのない文化にも目を向けるようにしました。それと HSK5 級の試験を合格するということが目標でした。概ね達成することができたと考えています。最初は不安でいっぱいでしたが、意外と心地よいところが多く、すっかり中国の文化に馴染んだと思います。HSK5 級の試験にも合格しましたし、やり残したことはないと思っています。

■派遣先国・大学で、どのような国際交流を行い、どのような活動をしましたか？

日本について説明する機会が多かったです。今の世の中インターネットが普及して多くの情報が手に入りますが、やはり間違った情報が多くありました。そういった情報で勘違いしている人に日本のことを説明し、私もテレビのイメージやネットで見た中国のことを話し合いました。

■ 留学中、どんな困難や苦労がありましたか？またその困難をどう乗り越えましたか？

一番困ったことは、社会的・国際的問題について尋ねられた時です。今の香港の問題や、韓国に対する私の見解などを尋ねられた時、本当に返答に困りました。中国では噂が広まるスピードが速く、可笑しい発信をすればたちまち噂が広がります。なので、そこでは根拠のない考えは絶対に言いませんでしたし、どちらが悪いかという言い方もしないように努力しました。

■ 留学前と比べて「学習面」で成長できたと思う点はなんですか？

まず、目に見える成果については HSK5 級の試験に合格したことです。日本にいた時にはこのレベルに合格することは無理だと思い込んでいたので、本気で勉強するという習慣を身につけられれば、やり遂げられるというのを学びました。そして、自習という習慣を身につけられました。とりあえず 30 分、1 時間でも勉強するという習慣を続けることで、今では勉強に対するハードルがとても下がったと感じています。勉強を生活に取り込めたのは大きく成長できたことだと考えています。

■ 留学前と比べて「人物面」で成長できたと思う点はなんですか？

偏見がなくなり、相手を尊重できるようになったのが成長できたことだと思います。以前の私は自分では気づかない間に、人の性格を見た目で判断したり、テレビやインターネットで見た知識を鵜呑みにして、偏見の塊でした。中国での暮らしは、日本で勝手に勘違いしていた暮らしとは大きく違い、快適で何事も体験するまではわからないものだ実感しました。今までは頭だけでわかったつもりでいましたが、実際に身に染みて体感した瞬間でした。ものの見方が少し変わったように思います。

■ 今後、この留学経験をどう生かしていこうと考えていますか？

偏見がなくなったことで、人との交流はもっと楽しいものにはなりましたが、これを将来の仕事に生かせるかという確信は持てません。ですが、仕事ではなく、ボランティアならこの経験を生かせると思います。留学の際、現地の方に助けていただく機会も多く、その恩返しだとも思いますし、日本に興味を持ってもらえるのは、それだけでとても嬉しいことだと留学中気づきました。日本を訪れた方、すべての人に楽しい思い出を作れるよう、お手伝いできればいいなと考えています。

■ 留学は楽しかったですか？留学して良かったですか？留学を終えての感想を

留学は楽しいものであり、苦しいものでもありました。正直に書くと、楽しかったこと、苦しかったことがちょうど半分ずつであったようなイメージです。でも、振り返ってみると、この留学は必要なものだったんだと思います。自分の欠点を全て克服できたとは思いませんが、留学前は自分の欠点すら自覚できていませんでした。留学中は毎日が勉強で思った通りにできない自分に失望も沢山しましたが、少なくとも留学以前の私より、私は自分を好きになることができました。今ではこの留学の機会に感謝しています。

■中国及び派遣先大学の印象は？

とにかく勉強熱心な学生が多いイメージでした。私の他に日本人留学生がいなかったというのがありますが、日本語学科の学生たちは熱心に話しかけてくれる人が多かったです。中国の先生方も優しい方が多く、よく一緒にご飯を食べに行ったり、蘇州を紹介してくれました。

■留学して一番困った・大変だったことは？

留学して最初に困ったことは仕送りの問題です。私は中国で銀行口座を作って日本の口座からお金を送ってもらおうつもりでした。当初、3日ほどでカードをもらえると聞いていましたが、2ヵ月経つかどうかでやっと作ってもらえました。当然お金がなかったので、友達に借りて生活していましたが、国外でお金を借りるのは相当なストレスでした。

■留学中の楽しかった・嬉しかったできごととは？

中国の文化に触れるのがとても楽しかったです。食べ方や言葉遣いなど、慣れるまで面倒くさいと思われがちですが、その文化の意味に気づくたびに感心させられました。そして、文化が身についた時、彼らに認められる感覚はとても新鮮でした。文化を好きになれば、必ずその国も好きになっていくので、それは面白い感覚でした。

■留学先に持ってきて良かった・持ってくれば良かったと思ったものは？

持ってきてよかったものは、電子辞書。持ってくれば良かったと思ったのが、小説です。電子辞書ですが、これは買わないといけないものです。1人で勉強することはもちろん、学生に日本語の意味も聞かれるので、日本語も調べる機会が多かったです。小説はいい時間つぶしにもなりますし、日本語が恋しくなった時に読めるのでいいと思います。以前このようなアンケートを見たのですが、持っていかなくて後悔しました。

■留学中のお金の管理はどうしていましたか？

中国では基本キャッシュレスだったので、管理はとても楽でした。仕送り方法は、中国で中国工商銀行のカードを作り、日本の中国銀行からその口座に振り込んでもらっていました。中国では電子マネーの技術がとても進んでいるので銀行口座を作ってから楽でした。

■派遣先大学での生活環境はどうでしたか？

蘇州科技大学では、2人部屋の場合、外国人は外国人と一緒に住むことになります。私は2人部屋に居住していましたが、私が英語が得意ではない様子を見て、他の留学生は私の部屋に住みながら、1人で住むことになっていました。食生活は一食約10元、エアコンをつけていれば光熱費は1ヵ月に約30元ほどです。

■派遣先大学での課外活動はどんなものがありましたか？

蘇州科技大学のサークルはとても豊富で、サッカー、陸上、バスケ、各種スポーツにはじまり、日本語協会や英語協会、軽音サークルといった文化系のもものたくさんありました。

■どのような国籍の留学生がいましたか？

全体的にアフリカの方が多かったです。他にはモロッコやスペイン、ロシアから来た人もいましたが、ほとんどはアフリカの方でした。留学生という意味では、日本人は私 1 人だけでしたが、インターンという形で 1 人日本人の方が 9 月からいました。でも、その方とは住む場所が違っていたので、基本 1 人だと思っていいかもかもしれません。

■渡航前にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

勉強です。渡航後に何度も勉強しておけば良かったと思いました。中国語も英語も勉強しておくに越したことはないですが、どちらか一つしか勉強する時間がない場合は、英語を勉強しておけばいいと思います。渡航後は英語を使う機会の方が多いですし、中国語は後からでもすぐ話せるようになるので、英語が話せるに越したことはありません。

■渡航後にすべきこと・やっておいたほうが良いことは？

学生や先生とご飯を食べることです。これは本当に大事で、中国語が話せない内はこれが数少ないコミュニケーション方法となります。それと目標を何か持つことです。なんでも構わないので、目標を持つと、時間を無駄に過ごすことも少なくなりますし、日本に戻ってから自分の頑張りを言語化しやすくなるので、オススメです。

■今後の派遣留学生にむけてアドバイスを

生活面や学習面、全てにおいて言えることですが、その国の人になりきって生活してください。要は外国人という考えを捨てるということですね。日本での生活基準の考えを持ったまま生活するのと、その国の学生と同じ生活をするのでは、彼らに受入れられるスピードが全く違います。会話面では日本と中国の生活の違いについて話せますし、生活に慣れるのが早ければ早いほど、余裕が生まれます。この余裕を持っていなければ、常に外国にいるという意識が抜けず、とても疲れます。私は実際に疲れました。勉強の面でも、学生を真似していると自然に自習の習慣が身につくと思います。

留学体験記

僕が中国に留学しようと思ったのは、中国語の授業がきっかけでした。初めは単位が必要なので履修した授業でしたが、先生が話す中国事情がおもしろく、興味を持ちました。そこで交換留学制度を見て、思い切っ行ってみることにしました。

留学中は毎日が勉強でした。友達や先生に毎日のように中国語や、文化を教えてもらっていました。僕も日本語や、日本の文化を教え、お互いに勉強していました。僕は勉強が嫌いで、今まで自ら進んで勉強したことはありません。ですが、現地で中国語を学んでいる時は、勉強しているという意識がなく、生活に自然に取り込まれるようになっていたので、苦にならなかったです。自分の話した言葉が相手にうまく伝わる快感はおそらく日本では体験できないと思います。

留学ではたくさんのことを学びました。一番成長できたことは、自分の中に偏見がなくなったことです。以前の僕には、少なからず人に対して偏見がありました。それは外見であったり、生まれた国であったり様々でした。正直、中国に良いイメージはあまりなかったのも、留學生活に不安を持っていたこともあります。しかし、生活してみると、不安に思っていたほどでもなく、快適に過ごすことができました。中国の方も親切な方が圧倒的に多く、その時、自分の中にあった偏見を含んだ考え方に馬鹿らしくなり、考え方が変わりました。この経験がなければ、変わることはできなかったと思います。

交換留学制度を利用したことで、留学先の授業料の免除は大きなメリットでしたが、他にも1つとても良かったことがあります。それはサポートしてもらえるということです。というのも、蘇州科技大学の学生も奈良大学に留学に来て色々なサポートを受けているので、僕もサポートを受けることができました。生活の部分であったり、勉強の面であったり、とても助けてもらいました。個人的に留学に行っていれば、あそこまでのサポートは受けられなかったと思います。

今回の留学で、僕はいろんな人に助けられました。今度は僕が助ける番だと思っています。留学の経験をいかして、中国の観光客の方々や、日本で困っている外国の方をボランティアなどを通じて助けられたらと考えています。

